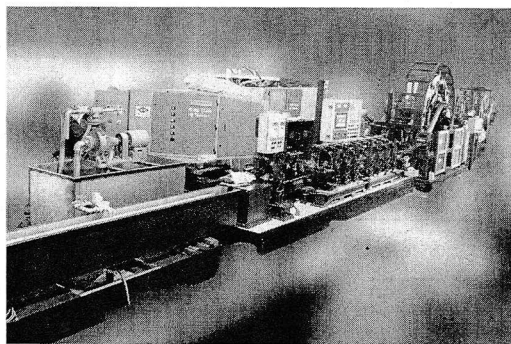


# 三益、ウズベクで受注

## 米GMM子会社向け

【相模原】三益(神奈川県秦野市、宇野祐二郎社長、04633・88・5556)は、米ゼネラル・モーターズ(GM)のウズベキスタン子会社向けにステンレス鋼造管機1台を受注した。中央アジアで自動車用ステンレス鋼造管機が稼働するのは業界初という。金額は非公表。マフラーやエンジン回りのパイプを製造する。排ガス浄化や軽量化による燃費向上につながるステンレス製部品の需要が増えるとみて造管機の受注拡大を狙う。



GMM子会社のGMMウズベキスタン(アンデイジャン州)の部品サプライヤーを通して造管機を受注した。すでに現地工場に設置し、オペレーターに作業方法も指導した。高周波溶接により外径2・5寸のパイプを製造する自動車用ステンレス鋼造管機(受注したものと同型機)

年間20万台とされる現地生産台数をカバーできる。世界的に自動車の排ガス規制が強化され、ロシアやカザフスタンなどの周辺国でも新車が対象となっている。ステンレス鋼は耐熱性や耐食性に優れるため排ガスの抑制や軽量化につながり、鉄鋼に代わりマフラーなどの排気系部材に採用される

ケースが増えている。自動車用途に限らずウクライナやベトナムなどから引き合いもあり、「今後は積極的に事業展開していく」(平田健取締役)方針だ。

三益は金属パイプ製造用圧延機や造管機が主力。冷間ロール成形ラインと造管ラインのメンテナンス事業にも力を入れている。2021年3月期に売上高7億円を目指している。